

箱の集合体 -Community center-

1110343 檜村 宏一郎 社会システム工学科

Keyword コミュニティ施設、商店街、
健康づくり、ふれあい

1 計画の背景

現在、商店街が時代の変化の影響で衰退している。衰退の主な理由として以下のものが挙げられる。

- ・ 少子高齢化
- ・ 店舗の営業終了時間
- ・ 消費者の購買行動の変化

商店街は商業機能のほかに人と人、人と地域をつなぐ場として機能していた。しかし、このような貴重な場が失われようとしているので、守り、残していかななくてはならない。

こうした背景を受けて、商店街をどのようにして救済、活性化いくのかと思ったのが計画の動機である。

2 計画の目的

選定敷地は、岡山市の中心部にある奉還町商店街の最西端にある一画である。この敷地は主に駐車場として利用され商店街と接している面はシャッターを閉めている店舗や空き店舗が並んでいる。

この奉還町商店街は岡山駅から北西に約 500m の距離に位置している。そして岡山駅の改修工事も終わりアクセスもしやすい環境が整っている。近年、駅の西側の再開発が進み高層の建物や道路の建設や整備が行われている。そのような中でもこの商店街

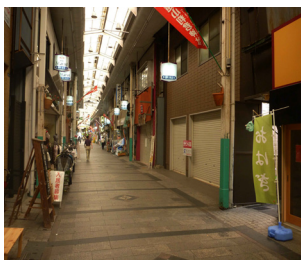
の人通りは若干であり、その人たちは商店街の買い物客というより、車の来ない安全な歩行者・自転車道として利用している通行人という感じで、商店街としては円滑に機能しているとはいえない状況である。そして利用客の大半は地域住民や高齢者だからである。

これらのように奉還町商店街を衰退させている主な問題、原因は以下の項目である。

- ・ 店舗数の減少
- ・ 店主も含めた地域住民の高齢化
- ・ ドーナツ化現象による中心部の空洞化による利用者の減少

そこで、私はこの奉還町商店街に高齢者が利用しやすいコミュニティ施設を提案する。

なぜ、高齢者向けのコミュニティ施設なのか。それは、商店街を利用する人の多くが高齢者である。これからも高齢者人口は増え続けるため主な利用対象を高齢者とした。ここでは健康維持のためのスポーツや趣味、文化教室を通して利用者がふれあうことのできる施設だからである。



商店街現状写真 1



商店街現状写真 2

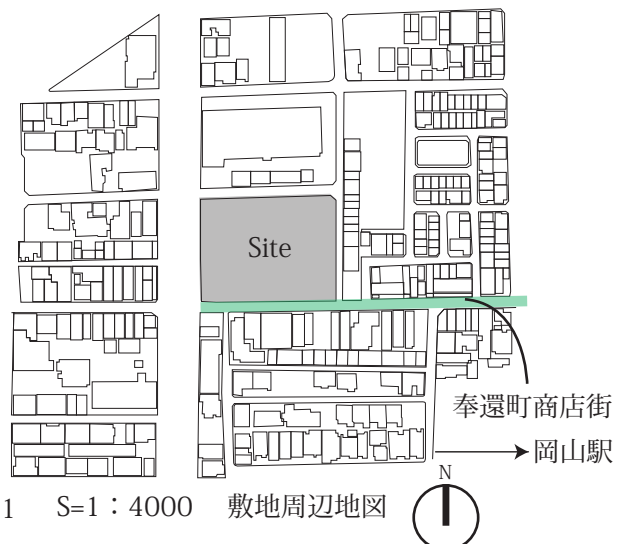


図 1 S=1 : 4000 敷地周辺地図

3 施設の構成

このコミュニティ施設のテーマを「健康づくりと心づくり」とおき、以下の基本方針で構成している。

・体を動かす、健康づくり

温浴、機能回復室、軽運動のできる広間、高低差のある2階フロアの階段

気軽に体を動かすきっかけがあり、日頃の健康維持や積極的な体力づくりができる。

・趣味を広める、教養を深める

工芸室、和室、講義室、展示スペース、調理器具など各専門的な機能を備えた教室、和室

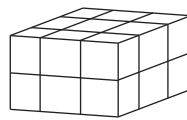
知的好奇心を満たす機会がある、高齢者が進んで文化的な活動に参加できる。

・仲間をつくる、交流を広める

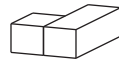
休憩スペース、広場

これらの場所ではリラックスしたり知人とお茶を飲みながら話をしたり、また教室活動を通じた出会い新たな出会いや交流を深めるなど多様な楽しみ方ができる。

4 空間

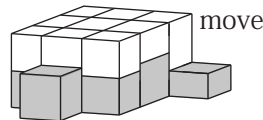


基本形は初頭幾何学形態である
長方形の集合体である



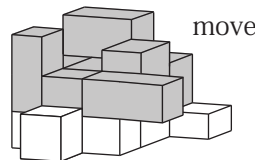
change

1つ1つ長方形の辺の長さや高さを変化させる



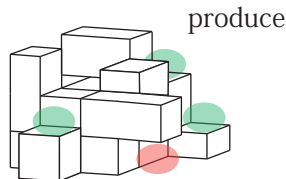
move

1階フロアにある長方形を移動させる操作を行う



move

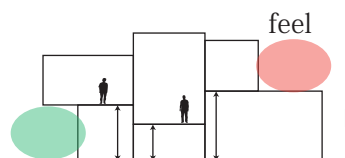
2階フロアも1階フロアと同様に移動させる操作を行う



produce

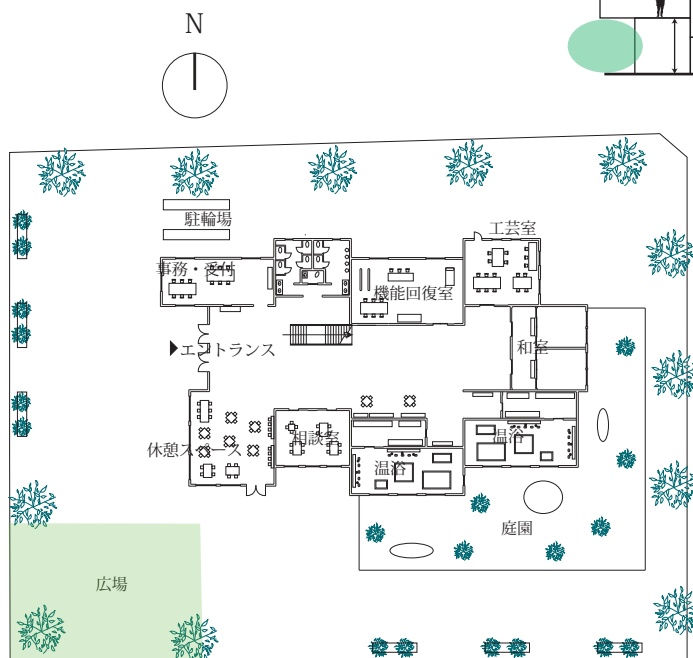
1階、2階フロアと同じ操作を行うことで今までなかった新たな空間をつくることできる

● : Static ● : Dynamic

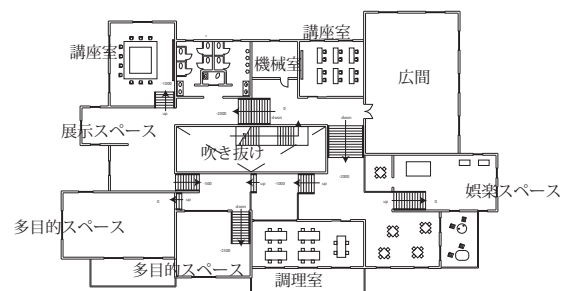


feel

レベル差が生まれ、空間を立体的に感じる



1st floor plan S=1:800



2nd floor plan S=1:800